乙見湖休憩舎　乙見湖 (おとみこ）

笹ヶ峰（ささがみね）ダムは乙見湖（おとみこ）と関川（せきがわ）の間にある土質のロックフィルダムで、堤高は48.6メートル、提頂長は318メートルある。

乙見湖は、3万年以上前、黒姫山（くろひめやま）（2,053 m）山頂の崩落で生じた大規模な地滑りが関川をふさいだことで形成された。堰き止められて以来、湖は90万トンの水を蓄えるまでに大きくなり、その水は複数の水力発電所の動力源としてのほか、50キロメートル下流にある7,200ヘクタールの農地の灌漑用水としても使われている。

川沿いには、その急な高低差を利用して、1906～1939年にかけて12か所の水力発電所が建設された。ここで発電を行うことで電力コストを引き下げ、地域の発展を促進することが目的だった。1929年には、電力会社2社が関川の2つの支流の合流点を堰き止めることで貯水池と水力発電所を建設し、1951年にそれを笹ヶ峰ダムと名を改めた。現在のダムは1970～1979年にかけて同じ場所に建設され、乙見湖は1980年までに今と同じ大きさになった。ダムの向こうには、北から南（右から左）に向かって、妙高山（みょうこうさん）、火打山（ひうちやま）、焼山（やけやま）、金山（かなやま）、天狗原山（てんぐはらやま）、地蔵山（じぞうやま）を望むことができる。ダムの対岸には夢見平遊歩道（ゆめみだいらゆうほどう）へと上る階段がある。また、その階段の脇にはダム建設時に使われたトンネルがあり、ダム湖岸にある管理事務所へと繋がっている。